

## カナダ社会の構造と発展にメス

デビッド・スミス

**カ** ナダの社会についてアカデミックな立場から分析研究した本——今回はこれをご紹介します。

**多** 文化主義の観点からの社会研究には、Royal Commission on Bilingualism and Biculturalismが出した研究叢書のうち、たとえば第2巻 *Education* や「研究」7 *The Italians in Montreal* など何点かの研究がある。フランス系カナダを社会学的に分析した先駆的文献 Everett C. Hughes 著 *French Canada in Transition* (Chicago: University of Chicago Press, 1943)、および Horace Miner 著 *St. Denis: A French-Canadian Parish* (Chicago: University of Chicago Press, 1939) も忘れてはならない。

### キリスト教の影響

**カ** ナダ社会の発展に今も昔も無視できないのが、キリスト教である。S.D. Clark 著 *Church and Sect in Canada* (Toronto: University of Toronto Press, 1948) は、19世紀におけるキリスト教の影響をたどった労作である。プロテスタントとカトリックの抗争に代表されるさまざまな宗教紛争は、カナダ社会に大きな影を落としている。宗教は、たとえば John Meisel 著 *The Canadian General Election of 1957* (Toronto: University of Toronto Press, 1962) に見られるように選挙に影響し、あるいはアルバータ州の社会信用党を扱った W.E. Mann 著 *Sect, Cult and Church in Alberta* (Toronto: University of Toronto Press, 1955) に見られるように政党の結成を促す。あるいはまた、Richard Allen 著 *The Social Passion: Religion and Social Reform in Canada, 1914-28* (Toronto: University of Toronto Press, 1971) が描き出しているように、工業化、都市化に対する国民の態度形成にも影響を与えている。

### 権威に対する態度

**キ** リスト教がヨーロッパ伝来のものであるとすれば、“権威”に対するカナダ人の態度も、やはりヨーロッパから受け継いだものである。この点で、カナダはアメリカと著しい対照をなしている。この辺の問題を追究した本として、S.M. Lipset 著 *The First New Nation: The United States in Historical and Comparative Perspective* (New York: Doubleday, 1963) や、歴史学者 William Morton の *The Canadian Identity* (Madison: University of Wisconsin, 1961) がある。後者は Morton がアメリカで行った一連の講演を集めたもの。最も新しい本では、ア

メリカからカナダへ脱出してきた学者 Edgar Z. Friedenberg による鋭角的な研究 *Deference to Authority: The Case of Canada* (White Plains, N.Y.: M.E. Sharpe, 1980) がある。

**カ** ナダ人がなぜ権威に従いやすいかという問いには、いろいろな解答があるだろう。ただひとつはっきりしているのは、それがカナダの社会構造、階級構造に関係しているという点である。John Porter 著 *The Vertical Mosaic: An Analysis of Social Class and Power in Canada* (Toronto: University of Toronto Press, 1965) は、この点を扱った、カナダの学界で最も有名かつ影響力のある本といってよい。階級の問題は、近年、ますます注目されてきており、Gary Teeple 編 *Capitalism and the National Question in Canada* (Toronto: University of Toronto Press, 1972)、Wallace Clement 著 *The Canadian Corporate Elite* (Toronto: McLelland and Stewart, 1975) などの労作が出ている。

### 都市と農村

**カ** ナダ経済は天然資源に頼る部分が大きいとはいえ、カナダ人は基本的に都市型国民である。この点は社会学研究にも色濃く出ている。John N. Jackson 著 *The Canadian City* (Toronto: McGraw-Hill Ryerson, 1973)、Harold Kaplan 著 *Urban Political System* (Toronto: Copp Clark, 1968)、S.D. Clark 編 *Urbanism and the Changing Canadian Society* (Toronto: University of Toronto Press, 1961) などが、その例としてあげられよう。

**視** 点を都市から移すと、古くからの農村社会に都市化が及ぼす影響を分析した文献が目につく。Jean Burnet 著 *Next-Year Country: A Study of Rural-Social Organization in Alberta* (Toronto: University of Toronto Press, 1951) は、当時の研究動向の典型例として参考になるし、Rex A. Lucas 著 *Minetown, Milltown, Railtown: Life in Canadian Communities of Single Industry* (Toronto: University of Toronto Press, 1971) は、資源産業都市の変貌を扱っていて興味深い。

**最** 後にカナダの社会研究文献でこれだけは欠かせないという本、S.D. Clark 著 *The Social Development of Canada* を紹介しておこう。カナダの社会についてこれから勉強しようという人には、最高の入門書である。

(サスカチュワン大学教授)